

a 学校教育目標	高め合おう ともに — かしこく やさしく たくましく —	b 経営理念 ミッション・ビジョン	「自信がもてる学校づくり」 ○ 大入小教育の伝統と誇りを集大成し、地域に元気を与える存在になる。 ○ 自信を持って児童を阿賀小に送り出せる学校をめざす。
----------	----------------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善方策		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	l 評価			m コメント	n 改善方策
					h 達成値	h 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力の育成	◎表現力の向上(はっきり読む)(正しく読みとる)	①各教科で音読を重視する。 ②「ことのはタイム」等で言語技術の向上を図る。	表現力が向上した児童の割合(児童・教職員評価B以上)	90%	90%		90 ÷ 90 100%	A	・音読を授業の中でしっかり行ったり、学習発表会・連合音楽会に向けてははっきり大きな声を出させたので、高い評価になった。	6			・家庭でする宿題や読書など、先生が見えない所での活動の意義を児童に理解させるのは難しいと思うが、学校は努力している。 ・担任によって、宿題の量や質・点検の仕方が異なるので、学校として取り組んでほしい。	・読書カード等を用いて、読書の状況を把握し個人的に声かけを行う。 ・定期的に図書室を活用して、読書する機会を増やす。 ・宿題や家庭学習のチェックをきちんと行い、家庭にも協力を仰ぐ。
	◎学習規律の定着(しっかり聞く)	①全ての場で「聞く態度」を評価する。	「しっかり聞く」が向上した児童の割合(児童・教職員評価B以上)	90%	90%		90 ÷ 90 100%	A	・阿賀中学校区の「聞き方マニュアル」に沿って、全教職員が聞く態度を指導したので、落ち着いて聞く習慣ができた。	6				
	家庭学習と読書の習慣化	①家庭学習をしっかりと出し、点検する。 ②大入読書週間や読書の宿題を実施する。	家庭学習・読書の習慣が身についた児童の割合(児童・保護者・教職員評価B以上)	85%	65%		65 ÷ 85 76%	C	・読書については、学校行事等の練習に追われて読書の時間がきちんととれていない。また、読書を宿題に出していない結果が現れた。宿題忘れの児童が決まっており、指導の効果が出ない。	4	1	1		
豊かな心の育成	◎元気な声のあいさつ・返事	①しっかりとほめる・やり直しをさせる。	元気な挨拶や返事ができた児童の割合(児童・教職員評価B以上)	100%	93%		93 ÷ 100 93%	B	・挨拶は「つながり挨拶」などの工夫を取り入れたことで、校内での挨拶は元気にできている。返事については、教師が意識していないと声小さくなったり、忘れたりしているのが原因と考える。	4			・「つながりあいさつ」など工夫していると思う。	・あいさつや返事の習慣化は、どの教師も意識統一して粘り強く指導していく。
	全員1回以上の表彰	①各種コンクール・大会に参加する。 ②良さを見つける場作りをする。	「得意なもの」が自信をもって言える児童の割合(児童評価B以上)	90%	79%		79 ÷ 90 88%	B	・得意(自信)なものが言えない児童が6人いた。その児童の良さを教師は知っていて伝えているつもりだったが、児童は友達に言われないと自信がもてないのではないか。	6				・めざす子ども也像「こんな子どもになってほしい」をはっきりさせ、教職員が意識統一して、目標を絞って取り組んでいく。
健やかな体の育成	外遊びの習慣化	①外遊びの点検と「遊びデー」をつくる。	「外遊びが習慣化した」児童の割合(児童・教職員評価B以上)	100%	86%		86 ÷ 100 86%	B	・昨年に比べ、外で異学年で遊んでいる様子をよく見たが、高学年女子の自己評価が低い。決められた日には全員が外で遊んでいる。	6			・100%達成は無理がある。現状を見ると目標は達成できていると思う。	・外遊びについては、毎週の木曜日に全員が外に出て遊ぶ「なかよしタイム」を定着させる。
	調整力の向上(一輪車・縄跳び)	①学期ごとに各自の目標決めと認定を行う。	目標が達成できた児童の割合(児童評価)	100%	90%		90 ÷ 100 90%	B	・一輪車については、運動会前は目標をもって(必要に迫られて)よく練習していたが、その後、練習しないため、下手になったと感じた児童がいる。	6				・「縄跳び」の季節になるので、認定証を活用して、達成目標を明確にして取り組む。
その他	積極的な情報発信	①通信の発行や連携を積極的に行う。 ②地域の掲示板を活用する。	肯定的評価をした保護者や来校者の割合(保護者・来校者評価B以上)	90%	88%		79 ÷ 90 88%	B	・全体に出す便りはよく発信したつもりだが、学級の様子を知らせる面で、学級差が大きく保護者は情報不足と感じているのではないか。また、出しても十分に読んでもらえていないのではないか。	6			・最後の年を工夫して盛り上げているのが評価できる。	・保護者に学校の様子がよくわかるようになってもらえるように、学級通信の発行(回数や内容)を工夫する。 ・保護者の来校時には児童の様子を伝えたり、気軽に電話をしたりと連携を密にしていこう。 ・地域の掲示板や回覧物を積極的に活用する。
	ラストイヤー行事の充実	①授業や行事に地域の人材を活用する。 ②行事委員会と協力して行事の工夫をする。	「行事が楽しかった」と答えた人の割合(アンケートB以上の割合)	90%	94%		94 ÷ 90 104%	A	・PTAのラストイヤー行事委員会と連携して工夫した行事ができた。学校行事の工夫は100%の評価を頂いたが、楽しく参加という点では児童・保護者とも否定的な意見があった。	6				

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。